

第2次伊豆の国市総合計画後期基本計画（案）に対する
伊豆の国市総合計画審議会委員の意見の取りまとめについて

1. 総合計画審議会実施日時

令和3年度第2回伊豆の国市総合計画審議会

日時：令和4年1月13日 14時30分～16時10分

場所：伊豆長岡庁舎3階第1・2会議室

2. 伊豆の国市総合計画審議会委員の意見に対する対応について

後期基本計画の取組を効率的・効果的に進める際の具体的な意見であることから、計画を実施する段階において、いただいたご意見を参考にしつつ、取組を進めていきます。

3. 委員意見一覧

高齢者の免許返納の促進と交通手段の確保の連動について	
	<ul style="list-style-type: none">・高齢者の運転免許返納の啓発強化と公共交通網を合わせて考えていく必要がある。・もっと行政側が地域に入り込み、どうしたら運転免許証がない高齢者の生活を支えていけるのか、市民の意見を聞きながら具体的に進めていく必要がある。
小売業者が地域へ出向いていく仕組みづくりについて	
	<ul style="list-style-type: none">・公共交通だけに頼るだけでなく、小売業者の方が出向いていくような仕組みなども積極的に進めていってはどうか。
観光周遊バスやシェアサイクルの活用について	
	<ul style="list-style-type: none">・観光周遊バスは、土日の観光客以外に平日の利用もあるので、例えば、100円で片道乗り放題にすると、観光客だけでなく市民にも使いやすいバスになるのではないかな。・オリンピックを機に、自転車のまちとしてシェアサイクルといった取組がされており、自転車に乗ることは健康づくりにもつながるので、市民にも享受してもらいたい。
事業者同士が連携し、主体的に行う取組について	
	<ul style="list-style-type: none">・総合計画の取組に関して、民間の団体同士が具体的に掛け合わさることで実現していくものもたくさんあるのではないかなと思う。
大河ドラマ館や歴史散策コースを複数の地域資源と連携させることについて	
	<ul style="list-style-type: none">・大河ドラマの散策コースが設定されているが、歴史だけでなくいちご狩りや食事処など、いくつかの地域資源と結びつけていくことが重要。・シェアサイクルは、長岡だけでなく韮山にもあると、より健康になり、良いのではないかな。・大河ドラマ館も、例えば、いちご狩りとセットにするなど、一つに留まらず複数の場所へ行ってもらおう仕掛けがあると良いのではないかな。
市民や民間が提案を相談できる窓口の設置について	
	<ul style="list-style-type: none">・まちを活性化する取組について提案を誰でも相談できる窓口があると良いと思っている。
必要に応じた条例の改正について	
	<ul style="list-style-type: none">・民間の活力や地域の盛り上がりや削がれることのないよう、新しい条例を作る勇気を持ってほしい。

多様な観光ニーズに対応した取組とその継続性について	
	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな観光ニーズを幅広く集め、外から来る人だけでなく、地域の人と連携し、掘り起こしながら形づくりをしていけたら良い。 ・伊豆の国市は歴史のあるまちであり、そのまちに住んでいるという誇りを市民にも持っていただくことで、外から来る人たちに対しウエルカムの気持ちがより強く醸成され、今後の新たな観光の創出につながることを期待する。
ラジオやテレビを活用した農産物・農業の魅力PRについて	
	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆の国市にはせっかくFMがあるので、ラジオを活用し、ストーリー性のあるドラマ、例えば、鎌倉殿の13人に合わせたものなど取り入れ、伊豆の国市ではこんな農産物を作っているというようなことをPRしたらどうか。 ・ニューファーマーの移住者が今度は指導者として活躍しているといった映像を、移住を考えている方が見たら、伊豆の国市に来て面白いなと思ってもらえるのではないかと。
市の各施策とスポーツのタイアップによる、体力づくり・健康寿命の延伸について	
	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的に自分の体力を高めたり、健康的になるためには、健康マイレージとスポーツ振興をタイアップし、もっと自分自身で体力を高めたり、健康寿命を延ばす事業を強化すると良いのではないかと。
情報発信におけるブランディングの重要性について	
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信において、伝えるという面では、広く知らせる広報に加え、ブランディングも重要。 ・「生み育てやすいまち長泉」というキャッチフレーズでブランディングに成功した長泉町のように、情報発信プラス子育てを応援しているまちだという印象付けをどのようにしていくかということが、非常に大事だと感じる。
子育てママによる情報発信について	
	<ul style="list-style-type: none"> ・長泉町や富士宮市が実施している、お母さん達が記者となってまちを取材し記事を書くという「ママラッチ事業」のような事業が伊豆の国市でも行われると、参画している意識が高まっていくのではないかと。
伊豆の国市の目指す姿のキャッチコピーについて	
	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、「農業を推し進めている伊豆の国市」、「観光を推し進めている伊豆の国市」、「子育てが一番しやすい伊豆の国市」といったキャッチコピーを立て、そこに皆様が向かっていくような形が伊豆の国市でできれば良いのではないかと。
伊豆医療センターの充実について	
	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にとって、田京駅の近くにある伊豆保健医療センターは便利な位置にあるので、伊豆の国市が中心となって充実を図ってほしい。
総合計画の具体的な実施に向けた職員の育成について	
	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画はを実現していくためには、相当人がものをいうと思うので、その人をどうやって育てていくかを、どこかに据えておく必要があるのではないかと。
奉仕作業といった不払い労働の負担について	
	<ul style="list-style-type: none"> ・田舎は、不払い労働がとても多く、それを負担に感じる方や、高齢化で参加したくても参加できない方も増えており、最終的には市民に協力や負担をお願いしなければならない部分があると思う。 ・そのためにも財政状況をはっきり出していくほうが良いのではないかと。

伊豆の国市のBS（貸借対照表）・PL(行政コスト計算書)を開示について

- ・最終的には市民に協力や負担をお願いしなければならない部分があると思うので、伊豆の国市のBS（貸借対照表）・PL(行政コスト計算書)を開示することはできないか。
- ・市でどこまで財政状況を開示できるか、市の財産をお金に換算することは難しいかもしれないが、市民の協力を得るためにも、可能ならば直接市民へ開示してはどうか。

PDCAサイクルの考え方について

- ・PDCAサイクルの考え方について、Cを「評価」という意味で使われていることがあるが、本来はチェックという意味。
- ・よくできたか、できなかったか、ということよりも、よくできたかもしれないがもっと良くするにはどうしたらよいか、よくできた要因は何なのかを点検し、改善につなげることが本来のPDCAサイクルである。
- ・総合計画と分野別計画をリンクさせることは重要だが、問題は、計画が多すぎて、計画策定＝Pが大きくなり、チェック＝Cも細かくなり、行動する＝Dにかかる労力が少なくなってしまうことにある。
- ・計画策定に労力をかけすぎず、まずは何か行動に移し、やれることからやっていくことが重要。